

我孫子市鳥の博物館調査研究報告第4巻：61-64（1995）

## 手賀沼におけるオオバン (*Fulica atra*) の個体数調査から まとめた一年の生活スケジュール

齊藤安行

キーワード：オオバン、手賀沼、生活、スケジュール

はじめに

手賀沼下沼において、オオバンの個体数を一年を通じて調査した。この結果から、手賀沼に生息するオオバン個体群の一年の生活スケジュールについて把握できたことを報告する。

### 調査地と方法

調査地は、千葉県の北部に位置する手賀沼の下流域（通称「下沼」）を取り囲む堤防より水面側で、ヨシ原と開放水面で構成される地域である。調査地の状況については、我孫子市鳥の博物館調査研究報告 Vol.3（齊藤 1994）に記した通りである。

調査地域全域をもれなく観察することができるように、調査地域をとりまく湖岸に、観察地点を5地点設け、1993年3月26日から1994年3月15日までの間、原則として10日おきにオオバンの個体数を調査した。観察地点の位置と観察範囲は、手賀沼とその周辺の鳥類センサス調査結果報告V（平岡ほか 1994）と同様である。

個体数のカウントにあたっては、オオバンがどんな分布状況であったか（①単独、②番、③家族、④群れ）、また、どんな行動をしていたか（①造巣または抱卵、②攻撃または逃避、③給餌または求餌、④採餌、⑤休息・羽づくろい・移動）によって区別して数えた。

以上のカウント結果をもとに、手賀沼に生息するオオバンの一年の生活のスケジュールをまとめた。

### 調査結果

#### 1. 分布状態別の個体数の月変化

オオバンの分布状態を便宜的に①単独、②番、③家族、④群れに区別して、個体数をカウントした（図1）。なお、①単独は、約5m以内に他個体がなく1羽で行動している状態、②番は、2羽の成鳥が明らかに連れだって行動している状態、③家族は、成鳥と幼鳥が連れだって行動している状態、④群れは、3羽以上の成鳥が、約5m以内集まって行動している状態をそれぞれあてはめた。

この結果、オオバンの分布状態①～④は、季節的に変化した。

限られた期間に観察された分布状態は、③家族群と④群れであった。③家族群は、6月上旬から9月の下旬の間に見られた。④群れは、6月上旬と10月上旬にも見られるが、

主に、11月中旬から4月上旬まで多かった。②番は、8月上旬から11月上旬まで見られなかった以外は、ほぼ一年中観察された。また、①単独は、年間通じて見られた。

なお、観察したオオバンの総個体数が季節によって変化するが、これは、冬期に越冬群が加わり個体数が増加するためと夏期に繁殖個体が抽水植物群落内に潜み観察されづらい(斉藤 1992) ためである。

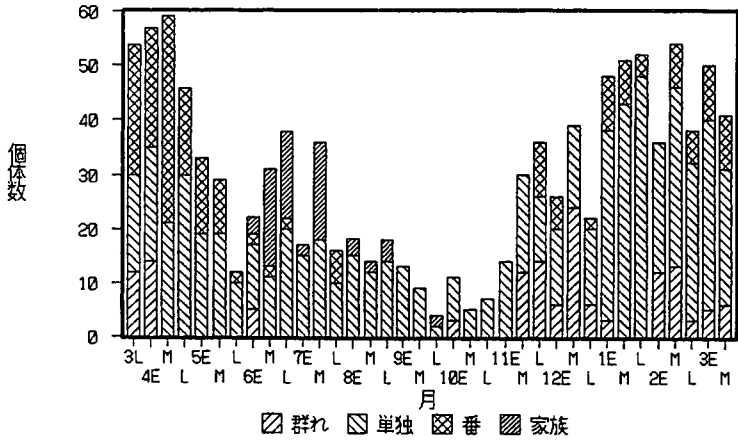


図1 分布状態の個体数変化

2. 行動の種類別の個体数の月変化

観察した時のオオバンの行動を、①造巣または抱卵、②他個体への攻撃または逃避、③給餌または求餌、④採餌、⑤休息・羽づくろい・移動に区分し、個体数をカウントした(図2)。

この結果、①造巣または抱卵は、4月下旬から6月下旬まで見られ、②他個体への攻撃または逃避は、5月から10月をのぞく、毎月見られた。③給餌または求餌は、6月上旬から下旬まで見られた。④採餌、⑤休息・羽づくろい・移動は、一年中見られた。

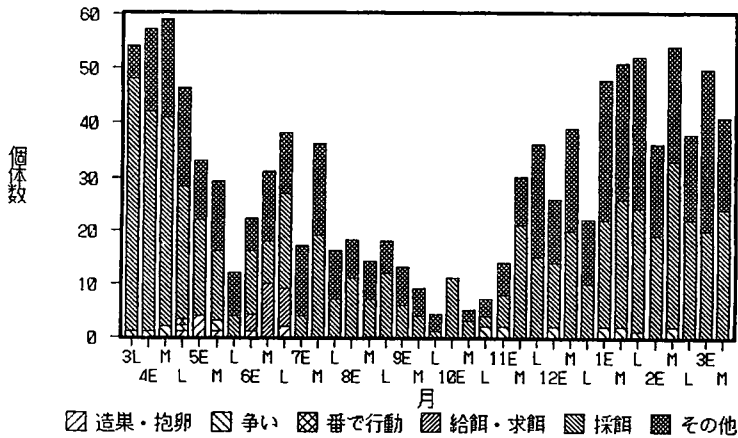


図2 行動区分別個体数の変化

まとめ

個体数調査の結果に、営巣状況調査の結果（斉藤 1994）を加えて、手賀沼におけるオオバンの一年の生活スケジュールを知る手がかりとなる観察項目と観察時期を図示した（図3）。

繁殖期を反映する個体数調査の項目は、1. 分布状態別の個体数では、③家族群が観察されることである。また、2. 行動の種類別の個体数では、①造巢または抱卵が見られること、③給餌または求餌が見られることである。一方、越冬期を反映する項目は、1. 分布状態別の個体数の、④群れが観察されたことである。

観察した行動・状況	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
情報時期の	造巢または抱卵を観察した			●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●					
	産卵を確認した*				●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
	給餌または求餌を観察された					●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
	家族群での行動が観察された						●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
情報越冬期の	群での行動が観察された	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
	番が観察された	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
	争いが観察された	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●

注 ●●●●●●●● 観察されたことを示す  
 --- 未調査  
 ●●●●●●●● 産卵を確認した\* 営巣状況調査結果（斉藤 1994）より

図3 手賀沼のオオバンの一年の生活

以上をまとめ、手賀沼に生息するオオバンの一年の生活を模式図で示した（図4）。「造巢、産卵、抱卵」は、4月の上旬から始まり、7月中旬まで見られる。6月の上旬から「家族」が観察され始め、9月の下旬まで見られた。その後、10月中旬から「越冬群」が観察され始め、4月上旬まで続いた。

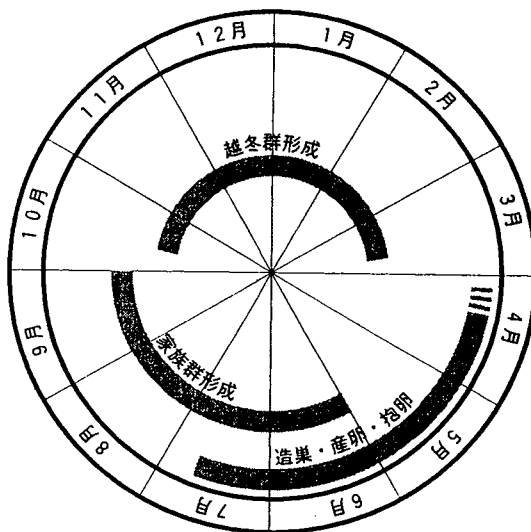


図4 手賀沼のオオバンの一年の生活

## 引用文献

- 斉藤安行・平岡考・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅱ－水面(1988-1991)－
- 斉藤安行. 1994. 手賀沼におけるオオバン *Fulica atra* の営巣状況. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告. 3:15-25

**The outline of annual life cycle of the coot (*Fulica atra*) population in Tega-Marsh suggested by monthly counting of individual number.**

Yasuyuki Saito

**KEY WORDS :** Coot, Annual life cycle, Tega-marsh, Chiba

Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba, 270-11, Japan